

令和5年度 学校評価報告書

小樽市立長橋小学校
校長 谷本 慎司

1 本年度の重点目標

あしたも元気 100年目の長橋の子 ・基礎・基本を徹底し、知識・技能を確実に習得させる学校づくり ・ともに認め合い、思考力・判断力・表現力を高める学校づくり ・地域とつながり、学びに向かう力を涵養する学校づくり
--

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	◆全国・学力学習状況調査(6年)、標準学力調査(3・5年)において、国語は全道平均以上、算数は全道平均と同程度にする。	B	全国学力・学習状況調査の結果(全道比)では、達成率国語94%、算数87%となった。標準学力検査の結果(全国比)達成率、3年、5年とも、8割ほどとなった。	◎
	特別支援教育の充実	◆対象となる全ての児童の「個別の指導計画」の作成と「個別の教育支援計画(後志版)」を整備し、活用する。	A	対象となる児童全員の「個別の指導計画・支援計画」を整備し、活用を100%行った。	◎
	国際理解教育の充実	◆全学級で講師やALTを効果的に活用した外国語授業(活動)を実施する。	A	3～6年生については、外国語活動及び外国語科において、年間を通して専門的知識を持った非常勤講師による授業を実施した。特に高学年ではほぼオールイングリッシュの授業を行うことができた。1、2年生については、3学期に中学校派遣のALTと講師による活動を実施予定である。	◎
	理数教育の充実	◆「算数の勉強が好きですか」という設問において、肯定的回答の児童の割合70%以上。令和4年度質問紙「算数が好きか」の肯定回答68.2%▼	B	全国学力・学習状況調査 質問紙(6年生)では、肯定的な評価が43.2%となった。学校独自で実施した2学期末の児童アンケート「算数の学習はよくわかりますか」では、肯定的な回答をした全児童の平均値が87.7%であったことから、今後も授業改善を進め学習内容がよく分かり、算数好きな児童を育てていく。	◎
	情報教育の充実	◆全児童が1人1台端末を使い、目標を設定し文字入力やタッチ操作などを行うことができる。	A	全児童が1人1台端末を毎朝開く習慣を全学級で行い、総合的な学習の時間に設定したICTスキルの目標を達成するため、各学級で実践を行うことができた。	◎
	キャリア教育の充実	◆全学年で職場体験や外部専門家等を指導者や講師とする出前授業等を活用したキャリア学習を実施する。(実施率10割)	A	開校100周年記念事業と関連させた演奏体験(全学年参加)や福祉活動、防犯教室などを通じた様々な職業人との交流を持つことができた。	◎
改善方策	一人一台端末の有効活用を図りながら、本校の研究教科である国語科や各種調査で課題となっている算数科を中心に授業力を向上させるとともに、児童へ質の高い教育活動を提供するために、様々な機関と連携して、専門性を生かした授業の実施に向けた取組を進める。				
学校関係者評価委員による意見	・特に理数教育については、「わからない」が嫌いにつながり、つまずきにつながると思うので、ICTを活用しながら、その子に合った指導を充実させてほしい。 ・パキスタンや中国など、外国から来る児童が増えているので、より一人一人に丁寧な指導をお願いしたい。				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	◆特別の教科道徳(道徳科)の授業を全学級が、外部公開(保護者参観日、指導訪問等)する。	A	特別の教科道徳(道徳科)の授業を、全学級が保護者参観日や指導主事訪問等で公開することができた。	◎
	ふるさと教育の充実	◆全学年の児童が参加して潮音頭の振り付けを学ぶ取組を行うなど、年間1回以上、地域の教育資源(施設・人材・歴史・自然等)を活用した学習を実施する。	A	7月3日(月)に、藤間扇玉氏を講師として、全学年児童が参加した「潮音頭の振り付けを学ぼう」を実施し、潮ねりこみには総勢140名の梯団を組んで参加することができた。	◎
	読書活動の推進	◆「家読の日」の取組を継続・啓発し、家庭における読書習慣定着の取組を進め、保護者アンケート「お子さんは、平日家でどのくらい本を読んでいますか。」「の「しない」の割合を30%以下にする。	B	保護者アンケート「お子さんは平日家でどのくらい本を読んでいますか。」「の「しない」の割合は41.2%であったが、学校図書館司書の配置によって、図書館利用が増えたことにより、昨年度と比べ10.6%減少し全学年中5学年で減少した。	◎
	体験活動の推進	◆地域の人材・自然・施設を活用した体験活動を年間1回以上実施	A	生活科や総合的な学習の時間において、なげぼ公園で自然観察活動等を行い、学芸員による指導を受けるなど、地域の人材・自然・施設を「活用した活動を行う事ができた。	◎
	コミュニケーション能力の育成	◆「ほっと」を全学級で実施し、児童の実態把握に努め、コミュニケーション能力向上のための言語活動の充実を図る。	A	12月に、児童理解支援ツール「ほっと」を全学年で実施し、結果と課題を共有して児童の実態把握に活かすことができた。また、目的をもった児童同士の交流を行うなど、コミュニケーション能力向上のために言語活動を充実させた授業を全学級で行うことができた。	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	◆人権擁護委員会等による「人権教室」「情報モラル教室」「手話」等の外部講師による人権や福祉に関する授業を実施する。(8割)	A	11月1日(水)に小樽市GIGAスクールサポーターによる「情報モラル教室」を3年生以上で実施し、12月19日(火)には小樽ろうあ協会の方を講師に迎え「手話教室」を2年生で実施することができた。(83%)	◎
改善方策	家読の割合についての保護者アンケートの結果は、昨年度と比べ改善傾向にあることから、学校図書館司書と連携して、家庭における読書習慣定着に向けた啓発活動を継続して行っていく。				
学校関係者評価委員による意見	・担任が積極的に本に親しむ取組をするべき。 ・今の子どもは、家に帰るとYou tubeを見たりと、やりたいことがたくさんあるので、家読の取組については、粘り強く保護者へ啓発していく必要がある。 ・家読の取組を充実させるために、本の嫌いな子には、場面を想像しやすいという面で、漫画からでも良いと思う。 ・いじめ・不登校については、表面上だけでは見えないものなので、先生方がアンテナを高めて子どもの様子を見てほしい。				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	◆全国体力・運動能力・運動習慣等調査の体力・運動能力において、「走力」「全身持久力」を全道平均以上にする。	B	全学年で、年間を通してシャトルランの測定を行う取組を実施したり、「走力」「全身持久力」の向上を目的として、中学校体育科教員による出前授業を行ったりした。その結果、体力合計点(総合評価)で男子は全国平均比+2.6ポイントと全国平均を超え、女子も-1.5ポイントと全国平均同等程度となり、取組の成果が見られた。なお、全道平均比で走力(50m走)は男子-1.3ポイント女子-0.4ポイント、全身持久力(20mシャトルラン)は男子+1.0ポイント女子-2.2ポイントであった。	◎
		食育の推進	◆外部講師を活用した食育教室(食育セミナー)を1~4年生の全学級で実施する。	A	外部講師(栄養教諭)を活用した食育授業を、1・2年生が7月19日(水)に、3・4年生が9月22日(金)に実施した。また、5年生が6月19日(月)にワインクスター北海道の阿部氏を、9月13日(水)にル・キャトリエムの漆谷氏を講師に迎え、知産志食の食育授業を実施した。	◎
		健康教育の充実	◆保護者アンケート「お子さんは、早寝・早起き・朝ご飯など、基本的な生活習慣が身に付いてきていますか。」の肯定的回答を90%以上にする。(R3 90%、R4 86%)	B	保護者アンケート「お子さんは、早寝・早起き・朝ご飯など、基本的な生活習慣が身に付いてきていますか。」の肯定的回答は74.8%であった。	◎
改善方針		課題の克服に特化した年間を通した体力向上の取組を行うなど、児童の体力向上を図っていく。また、児童の基本的な生活習慣作りについては、道教委から出された資料等を活用しながらPTAに協力を依頼したり家庭と連携したりして進めていく。				
学校関係者評価委員による意見		・基本的な生活習慣が身に付いてこそその学力や意欲の向上、体力や運動能力の向上へとつながることなので、改めて「早寝」「早起き」「朝ご飯」など基本的な生活習慣の改善について、保護者や子どもたちへ伝えていってほしい。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	◆全国・学力学習状況調査や児童アンケートにおいて、平日家庭学習を学年×10分+10分としたと回答する児童7割以上	B	全国・学力学習状況調査(6年生)の回答結果は35.1%であった。また、児童アンケートの回答結果は全学年平均が72%であった。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	◆地域行事や町内会等と連携・運動を図った取組を年2回以上実施する。(含100周年)	A	開校100周年記念事業として、潮ねりこみへ学校梯団として総勢140名で参加した。また、札幌交響楽団による記念コンサートを企画し、約140名の保護者や地域の方が来校した。	◎
改善方針		高学年になるにつれて家庭学習時間の達成率が下がる傾向にあるため、高学年の児童に対して家庭学習の習慣作りのため、課題の出し方を工夫し、個々の児童に対する指導をきめ細かく行うとともに、家庭との連携を図っていく。				
学校関係者評価委員による意見		・放課後学習「まなびたいム」について、参加している子どもが、他の子ども引き込むなどして、どんどん輪を広げていくと良いと思う。 ・開校100周年記念で地域の方々にご協力いただいたので、今後も地域の方や町内会の方と一緒にできる行事が増えると良い。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	◆長橋中学校の公開研究会に全教職員が参加したり、近隣小学校との交流授業や公開授業への積極的な参加を奨励したりするなど学習連携を図る。	A	9月15日(金)に長橋中学校の公開研究会に全教職員が参加した。また、11月1日(水)に行われた塩谷小学校の公開研究会には2名、2月に実施予定の幸小学校の公開研究会にも教職員が参加を予定しているなど、近隣小学校との連携を図ることができた。	◎
		教育環境の整備・充実	◆1人1台端末を有効活用した授業実践交流・研修を年2回以上実施する。	A	校内研修において職員のミニ研修でアプリを使用した実践交流を行った。また、授業実践交流においても低・中・高学年で端末を活用した授業交流を実施することができた。	◎
		教職員の資質・能力の向上	◆全教職員が校外研修会や研究会・講習会などに参加する。	A	研修履歴を活用した受講奨励により、全教職員が小樽市主催の研修会に参加し、後志教育研修センターの研修講座等にも多くの教職員が積極的に参加することができた。	◎
		学校運営の改善	◆「一斉定時退勤日」の月2回、個人定時退勤日の設定を行う。	A	「一斉定時退勤日」を月2回設定し実施することができた。また、個人定時退勤日については、教職員個々の業務の進捗状況に合わせて定時で退勤できる日を積極的に設けさせることで、働き方改革の推進を図ることができた。	◎
		学校安全教育の充実	◆実効的・実際的なお迎え下校訓練を年1回実施する。	A	初めての試みであったが、6月16日(金)に「緊急時保護者引き取り訓練」を行うことができた。	◎
改善方針		全ての施策項目で目標を達成した。今後は、特に小中一貫教育の充実に向けて、計画的に授業交流等を行っていく。また、緊急時保護者引き取り訓練については、今年度の反省を踏まえて、異常気象や予期せぬ事象が今後も起こりうること想定し、次年度についても実施する方向で検討する。				
学校関係者評価委員による意見		・幼保小中一貫教育と考えると、小学校入学前からの連携をもっと密に行うことが良いと思う。例えば学芸会の劇を見てもらったり、年に何回かでも幼保と小の連携を充実させていくと良い。 ・「もしも」の時の訓練がとても大切だと思います。引き続き取組をお願いしたい。				
社会教育に関連する目標(目標6~8)		◆水泳学習、スキー学習、長期休業中の学習日に学校支援ボランティアを活用する。	A	水泳学習に1名、スキー学習に1名、冬休み中の学習サポートに2名の学校支援ボランティアを活用できた。	◎	
改善方針		次年度も、水泳学習やスキー学習、長期休業期間中の学習サポートに積極的にボランティアを活用し、児童一人一人に対応した指導の充実を図っていく。				
学校関係者評価委員による意見		・個々に合わせた指導、そして事故防止の観点からも、ボランティアの方が増えてくれると助かる。特に、低学年のスキー学習など、保護者の手伝いも募っていくと良い。				